# 受賞者の業績

石　川　光　江氏　49歳(北海道・保健婦)

当麻町に就任した昭和30年当時は交通の便が悪く、冬季は雪の中を馬ソリを使用して、農村地帯の妊産婦・乳幼児の健康増進、家族計画の普及等、一貫した母子管理体制を確立した。

また、歯科保健に力を入れ、2歳児健診でう歯予防の指導を行うほか、年2回の幼児歯科検診でフッ素塗布等を行っている。

相　馬　ふさ子氏　52歳(青森県・保健婦)

敗戦後の社会情勢の混乱期から、一貫して母子保健活動に携わってきた。

保健所の保健婦として、あるいは町村の駐在・派遣保健婦として、母子保健事業の普及・拡大に努め、また母子保健活動のシステムづくりにも尽力。

現在は保健所保健婦課長として保健婦の指導に当たり、高齢化社会に向けた母子保健向上を目ざしている。

増　田　　進氏　49歳(岩手県・小児科医師)

ほとんど無医村に近い状態であった沢内村に、国保沢内病院副院長として就任、同村健康管理課長を兼務して以来20年、治療と予防の包括保健活動の指導者として活躍している。

繰り返し乳児死亡率0を達成するなどの沢内村母子保健の輝かしい成果は、氏の力によるところが大きい。

矢　吹　セツ子氏　45歳(宮城県・保健婦)

昭和35年、山元町に就任。当時、県平均・全国平均に比べ非常に高かった乳児死亡率の改善に取り組んだのをはじめとして、常に地域の母子の実態に即した母子保健活動を展開。

さらに母子保健のみでなく、地域保健・学校保健との連携を求め、総合的事業として推進している。

佐　藤　則　子氏　46歳(山形県・保健婦)

東根市では地域に密着した保健活動のため、全市7地区に保健婦駐在制をとり、特に3ヵ月以内の全乳児に対し訪問指導を行っている。

さらに個別指導にとどまらず、住民の自主的な組織活動の育成を推進し、健康まつりを開催。住民の健康に対する意識も高く、各種健診受診率も向上している。

減塩教育など学校保健への働きかけも行っている。

菅　原　鞠　子氏　45歳(新潟県・主婦)

豊栄市の母子保健推進員として、10年間のきめ細かな活動により、住民の厚い信頼を得ている。

戸別訪問に力を入れる一方、団地母の会結成、団地における相談事業開設への働きかけ、母子保健推進員の資質向上のための研修等、多様な活動により、母子保健の向上に貢献している。

林　田　久　子氏　50歳(栃木県・保健婦)

矢板市では母子に対する家庭訪問、乳幼児健診のほか、乳幼児健康相談、幼児心臓検診、母親学級、婦人学級等、個人および集団指導を積極的に実施している。

各種調査を行ってその結果を事業に反映させ、高率であった周産期死亡率を大きく引き下げたり、母乳栄養率を高めるなど様々な成果を挙げている。

## 津　田　ヨシエ氏　39歳(千葉県・保健婦)

病医院が多く、流出人口の多い市川市で、行政の中に保健婦活動の路線を敷き、保健指導事業を確立。

殊に、一般にあまり知られていなかった両親学級(勤労妊婦対象)を健康教育の柱に育て上げたり、安産教室を発案・実行するなど積極的に業務に取り組んでいる。

## 宮　澤　千　枝氏　44歳(長野県・保健婦)

農家の多い池田町では、昭和42年ごろは妊婦が冷たい水田に素足で入り働いていた。妊婦と胎児の健康を守るため母親学級を開設、栄養指導に実習をとり入れたり、安産体操・ラマーズ法・病院産科見学・妊婦同志の交流に力を入れている。

年3回の妊婦歯科検診をはじめとする一貫した歯科指導でう歯率も減少。愛育班の育成も進められている。

## 荒　木　千壽子氏　47歳(静岡県・小児科医師)

下田保健所管内唯一の小児科専門医院として医療を行うと同時に、行政の委嘱を受け、乳児健康相談や3歳児健康相談を担当するほか、保健婦研修会・在宅助産婦等指導研修会の講師として指導に当たっている。

乳児健康相談は17年間休診ゼロであり、専門医であるため健診に対する評価も高い。

## 坂　口　恵美子氏　48歳(福井県・助産婦)

母乳哺育推進一筋に17年間病院助産婦として活躍。生後1ヵ月の母乳率を90数%にまで高めた。

助産婦中心の活動にとどまらず、産科医・小児科医・看護婦にも呼びかけて調査を行い、母児同室制の実施・母乳銀行の開設・桶谷式乳房治療手技の実施・外来母乳相談の開設など、母乳栄養の確立と維持に努力している。

## 岡　田　文　子氏　53歳(名古屋市・保健婦)

名古屋市の保健所で30余年間、母子保健に携わる。

3歳児健診用の精神発達アンケート作成に中心的役割を果たし、また同健診の予診用アンケートも試作。

このほか保健婦の事例研究会の結果を事例集として自主発行、年間200余件の個別保健指導、地区組織の育成・強化など積極的に幅広い活動を展開している。

## 宮　崎　豊　子氏　51歳(兵庫県・保健婦)

豊岡地方は気象条件が悪く、紫外線不足地域で、くる病予防活動を展開。また妊婦、婚前・新婚者等を対象に障害児出生予防について教育したり、全新生児の訪問指導実施、関係機関との連携による継続管理指導を行い、児の健全育成に努めている。

また母子保健推進員活動の推進、愛育班の育成指導に果たした役割も大きい。

## 岸　本　フ　ミ氏　49歳(岡山県・保健婦)

保健所、病院、町役場で22年間保健婦として活躍。

就任当時、人工妊娠中絶が多く、調査を行うと中絶後不健康の訴えが多かったため、受胎調節指導に力を注ぐ。また要注意乳児の早期発見・事後指導を徹底。

病院では小児科受診児の母親に対し保健指導を行う。

さらに邑久町において地域組織の育成とこれを利用した活動を推進している。

## 坂　上　トミ子氏　49歳(熊本県・保健婦)

竜北町で妊婦健診の充実、乳児健診の徹底(3ヵ月児－100%)、若妻・婚前・母親学級の開催、母子保健推進員活動等により、障害児の出生予防、早期発見・治療が可能になっている。

昭和40年代には、い草労働者の中に流早死産が増加。実態調査を行い、労働時間短縮、機械化、栄養指導を進め、妊婦の労働時間・流早死産・新生児死亡が減少した。